# 特集4 この10年の岐阜大学の歩み&トピックス(1999年～2009年)

1999年から2009年までの10年間、本学はさまざまな改善・改革を行ってきました。特に2004年、国立大学法人としての新たなスタートは、地方大学トップランナーとしての歩みを着実・確実に進めるうえで大きな変革期だったと言えるのではないでしょうか。この10年をトピックスとともに振り返ってみました。

## TOPICS 1 国立大学の法人化 ～地方大学トップランナーを目指して～ 2004

1949年に新制の国立大学が設置されて以来の大改革が行われた2004年の国立大学法人化。自律的な大学運営が可能となり、各大学は個性を打ち出して教育・研究の推進を図りました。本学も大きく変革し、異分野の研究者が連携して行う5つのプロジェクト型研究センター(人獣感染防御研究センター、先端創薬研究センター、金型創成技術研究センター、未来型太陽光発電システム研究センター、社会資本アセットマネジメント技術研究センター)の創設、岐阜薬科大学と連携した大学院連合創薬医療情報研究科の設置といったハイスピードな改革を行いました。

法人化後、大学に対する社会からの期待がますます高まる中、大学がなすべき教育・研究・社会貢献を支えるための基盤整備は大変重要です。本学独自の教育研究活動や教職員・学生による地域貢献活動などの継続的な展開を図るため創立60周年を機に創設した岐阜大学基金の充実、科学研究費補助金などの競争的資金獲得の拡大および業務見直しによる経費削減は、今後の大学運営における財務基盤として重要な取り組みです。これらの取り組みを進めながら全教職員が心をひとつにし、個性輝く中規模総合大学として地方大学トップランナーをめざします。

**1999**
- 工学研究科に環境エネルギーシステム専攻(独立専攻)を設置
- 創立50周年記念式典挙行

**2000**
- 医学部に看護学科を設置

**2001**
- 地域科学研究科を設置
- 工学研究科に応用精密化学専攻、生命工学専攻、電気電子工学専攻、応用情報学専攻(博士前期課程)を設置
- 医学部に医学教育開発研究センターを設置

**2002**
- 教育学研究科にカリキュラム開発専攻(修士課程)を設置
- 医学研究科(博士課程)5専攻を改組し、医科学専攻(博士課程)および再生医科学専攻(博士前期・後期課程)を設置
- 流域環境研究センターを廃止し、流域圏科学研究センターを設置
- 工学部が6学科を9学科に改組
- 産官学融合センターを設置

**2003**
- 医療技術短期大学部を廃止
- 生命科学総合実験センターおよび総合情報メディアセンターを設置

**2004**
- **国立大学法人岐阜大学が設立**
- 農学部を改組し、応用生物科学部を設置
- 教養教育推進センターを設置
- **医学部および同附属病院が柳戸キャンパスに移転統合**
- 人獣感染防御研究センターを設置

## TOPICS 2 医学研究科・医学部と附属病院が新築移転 ～全学部が柳戸キャンパスへ～ 2004

2004年6月、医学研究科・医学部と附属病院が柳戸キャンパスへ移転しました。当初の移転整備計画では、附属病院が平成15(2003)年度、医学部が平成18(2006)年度の予定で計画が進められていましたが、新病院の移転にあわせて医学部も同時に移転することができました。

新病院の第一の特色は、光通信システムによる高性能完全電子カルテ化による診療および病院経営・管理です。完全電子カルテにより、医療の質の高度均質化、安全性の向上および診療がスピードアップ化しています。第二の特色は、全国最大規模の高次救命治療センターの設置です。救命救急センター(平成18年2月から高度救命救急センターに認定)の指定を受け、24時間体制で救命救急医療を提供しています。

ハード面の特徴としては、バリアフリーに配慮した免震構造が挙げられます。病棟・中央診療棟・外来棟がひとつの建物として集約複合型病院棟になっており、1階アトリウムや多目的ホールは大規模災害時の治療スペースとして活用できる構造になっています。2009年3月に劇場公開された映画「ジェネラル・ルージュの凱旋」では本病院が撮影場所として選ばれ、大規模火災で運び込まれた患者を手当てするシーンなどが撮影されました。

TOPICS 3

# 大学院連合創薬医療情報研究科の設置

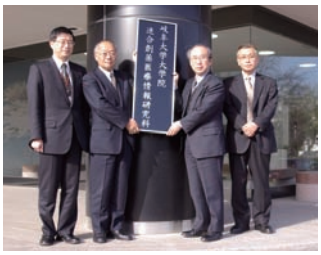
## ～全国初の国立大学法人と公立大学との連合による大学院～

2007

2007年4月1日、岐阜大学と岐阜薬科大学（市立）との連合による大学院連合創薬医療情報研究科が設置されました。本学の「工学」「医学」と岐阜薬科大学の「薬学」の教育研究組織が連合し、（独）産業技術総合研究所およびアステラス製薬株式会社の連携による「後期3年のみの博士課程」の大学院です。

新型感染症や免疫・アレルギー疾患、予防医学などの国家的課題や、「万人にある程度効く治療」から「安全で有効な個別化治療（テーラーメイド治療）」に移りつつある社会的要請に対応するため、工学・薬学・医学など多くの学問領域の横断的な研究を推進し、高度な専門性と柔軟な発想を有する人材の養成をめざしています。

現在、研究科の拠点は医学部看護学科棟5階にありますが、医学部棟の南に位置する本学の敷地内に岐阜薬科大学新学舎を平成21年度完成予定として建設中です。同大の新学舎が完成後、本研究科は学舎内へ移転します。



**2005**
- 医学研究科を医学系研究科に名称変更
- 医学系研究科に看護学専攻（修士課程）を設置
- 先端創薬研究センターを設置

**2006**
- 地域科学部が1学科を2学科に改組
- 工学研究科が7専攻を10専攻に改組
- 金型創成技術研究センターを設置
- 未来型太陽光発電システム研究センターを設置

**2007**
- 連合創薬医療情報研究科（博士課程）を設置

**2008**
- 教育学研究科に教職実践開発専攻（教職大学院課程）を設置
- 農学研究科を改組し、応用生物科学研究科を設置
- 特別支援教育特別専攻科を廃止
- 産官学融合センターを産官学融合本部に改称
- 社会資本アセットマネジメント技術研究センターを設置

**2009**
- 農業別科を廃止
- ロゴマークを制定
- 岐阜大学同窓会連合会を設立

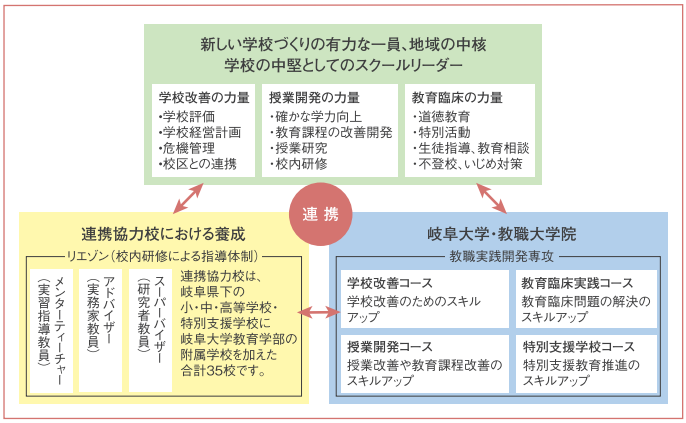
TOPICS 4

# 教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）の設置

## ～高度な教育専門職の養成をめざす～

2008

2008年4月、教職大学院課程である教職実践開発専攻が教育学研究科に設置されました。この課程では、学校現場の実践や開発に即戦力として貢献する高度な教育専門職を養成します。学校改善力・授業開発力・教育臨床的指導力を養成するため、多面的・総合的な力量を身に付けるカリキュラムと学校組織や教育指導の実践的な開発を意識したコース編成を行い、高度なジェネラリストとしての教師像をめざします。

特に、第2学年の必修科目「開発実践報告」はこれまでの修士論文とは異なり、現在の学校が抱える実践的な改善課題をテーマとして探求し、開発プランとしてまとめ、学校や地域に還元する社会的成果として修得します。

教育現場でのさまざまな課題、学校評価・学校経営計画・危機管理・校区との連携・特別支援教育の実施・学力向上・カリキュラム開発・授業改善・校内研修・不登校対策・いじめ対策・学級崩壊対策などを教職大学院は実践課題として扱います。